

〔重修本草綱目啓蒙^{水十六}〕龍舌草

大和本草ニミヅアサガホニ充ツルハ穩ナラズ、ミヅアサガホハ胡蘿蔔^{ナニシジ}ノ如キ根ナキ故ナリ、然レドモ其類ナルベシ、ミヅアサガホハ一名ミヅオホバコ、ミヅホコリ、筑前ミヅアフヒ、同上カハホウヅキ、備前タオホバコ、江州池澤及田中ニ生ズ、一根數葉形車前葉ニ似テ薄ク、黃綠色ニシテ常ニ水底ニアリ、秋ニ至テ莖ヲ抽テ頂ニ一花ヲ開テ水上ニ出ヅ、三瓣、大サ錢ノ如ク、淡紅色又白花ナル者アリ、共ニ花下ニ實アリ、長サ七八分、三稜ニシテ銳ナリ、内ニ小子アリ、一種大葉ノ者ハ圓ニシテ尖リ、大サ五六寸、花實モ亦大ナリ、

〔草木育種^下藥品〕龍舌草^{府志}

油葱^{嶺南}とも云、其脂液を本草に蘊蒼といふ、本暖國の産なり、阿蘭

陀には種類甚多し、本邦には黄花と淡紅花と二種あり、葉は蘿蔔の莖の如にして大なり、その形鰐魚^{かまどがた}の尾に似たり、夏秋二度花咲ことあり、花の莖三四尺あり、根より生る小科を分植べし、夏中人糞魚洗汁など多く澆てよし、尤盆栽なれば、土乾たる時澆べし、濕過れば腐易し、十月中頃より唐むろへ入、清明過に出してよし、